

## 子宮頸部摘出術における術中子宮摘出術へ移行した症例の調査研究

### 1. 臨床研究について

九州大学病院では、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。その一つとして、九州大学病院産科婦人科では、現在子宮頸癌の患者さんを対象として、子宮頸部摘出術における術中子宮摘出術へ移行した症例の調査研究を行っています。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2031年3月31日までです。

### 2. 研究の目的や意義について

近年、子宮頸癌の罹患年齢が若年化してきています。また一方で晩婚化傾向もあり、その結果として未婚・未産女性の子宮頸癌症例が増加してきています。これまで浸潤子宮頸癌に対しては標準治療として子宮摘出術もしくは放射線治療が施行されてきましたが、治療により妊孕性を喪失してしまうため、若年の子宮頸癌患者に対しては妊孕性を温存する治療法の開発が求められてきました。こうした背景を基に妊孕性温存目的に子宮頸部摘出術が考案され、現在世界で広く施行されています。我々も本学倫理委員会承認のもと、2005年6月より子宮頸部摘出術を開始しました。

これまでに子宮頸部摘出術を試みた症例を集積し、術中迅速病理検査により子宮摘出術へ移行した症例の臨床病理学的因子を検討することを目的とし、「子宮頸部摘出術における術中子宮摘出術へ移行した症例の調査研究」を計画しました。この研究で子宮頸部摘出術を行うに至って、子宮摘出術へ移行した症例の術前予測因子を検討することで、説明の具体化やインフォームド・コンセントの質の向上に繋がると考えます。また、術式の最適化や、新たな手術適応の基準を示すことができると考えています。また広く社会に本手術の意義を広めることができると考えています。

### 3. 研究の対象者について

九州大学病院産科婦人科において、2005年6月1日から2026年3月31日までに子宮頸癌の診断で子宮頸部摘出術を施行された患者さん、または子宮頸部摘出術を試みたが、術中に子宮摘出術へ移行した患者さん300名を対象にします。

研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、事務局までご連絡ください。

### 4. 研究の方法について

この研究を行う際は、カルテより以下の情報を取得します。結果と取得した情報の関係性を分析し、子宮頸部摘出術後の治療成績ならびに産科的予後と臨床病理学的因子との関連性を明らかにします。

[取得する情報]

年齢、BMI（体格指数）、婚姻状態、妊娠分娩歴、手術歴、円錐切除既往、円錐切除標本の病理評価、手術日、術式、腫瘍径、内子宮口と腫瘍の距離、組織型、進行期、脈管侵襲の有無、術前化学療法、術後追加治療、再発の有無、再発日、再発部位、転帰

[利用又は提供を開始する予定日]

研究許可日以降

## 5. 研究への参加を希望されない場合

この研究への参加を希望されない方は、下記の相談窓口にご連絡ください。

なお、研究への参加を希望されない場合でも、研究対象者の診断や治療に不利益になることは全くありません。その場合は、収集された情報は廃棄され、取得した情報もそれ以降はこの研究目的で用いられることはありません。ただし、同意を取り消した時にすでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。

## 6. 個人情報の取扱いについて

研究対象者のカルテの情報をこの研究に使用する際には、研究対象者のお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。研究対象者と研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野内のインターネットに接続されていないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、研究対象者が特定できる情報を使用することはありません。

この研究によって取得した情報は、九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野・准教授・矢幡秀昭の責任の下、厳重な管理を行います。

ご本人等からの求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方は、ご連絡ください。

## 7. 試料や情報の保管等について

[情報について]

この研究において得られた研究対象者のカルテの情報等は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野・准教授・矢幡秀昭の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

しかしながら、この研究で得られた研究対象者の情報は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えています。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

## 8. この研究の費用について

この研究に関する必要な費用は、部局等運営経費、講座寄附金でまかなわれます。

## 9. 利益相反について

九州大学では、よりよい医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのため資金は公的資金以外に、企業や財団からの寄付や契約でまかなわれることもあります。医学研究の発展のために企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者さんの利益と研究者や企業等の利益が相反（利益相反）しているのではないかという疑問が生じることがあります。そのような問題に対して九州大学では「九州大学利益相反マネジメント要項」及び「医系地区部局における臨床研究に係る利益相反マネジメント要項」を定めています。本研究はこれらの要項に基づいて実施されます。

本研究に関する必要な経費は部局等運営経費、講座寄附金でまかなわれており、研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

利益相反についてもっと詳しくお知りになりたい方は、下記の窓口へお問い合わせください。

利益相反マネジメント委員会

(窓口：九州大学病院 ARO 次世代医療センター 電話：092-642-5082)

## 10. 研究に関する情報の公開について

この研究に参加して下さった方々の個人情報保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の研究計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、ご連絡ください。

この研究では、学会等への発表や論文の投稿により、研究成果の公表を行う予定です。

### 11. 特許権等について

この研究の結果として、特許権等が生じる可能性があります。その権利は九州大学に属し、研究対象者には属しません。また、その特許権等を元にして経済的利益が生じる可能性があります。これについても研究対象者に権利はありません。

### 12. 研究を中止する場合について

研究責任者の判断により、研究を中止しなければならない何らかの事情が発生した場合には、この研究を中止する場合があります。なお、研究中止後もこの研究に関するお問い合わせ等には誠意をもって対応します。

### 13. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究実施場所	九州大学病院産科婦人科 九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野
研究責任者	九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野 准教授 矢幡秀昭
研究分担者	九州大学大学院医学研究院周産期・小児医療学講座 准教授 浅野間和夫 九州大学病院産科婦人科 助教 小野山一郎 九州大学病院産科婦人科 講師 八木裕史 九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学分野 助教 前之原章司 九州大学病院産科婦人科 助教 蜂須賀一寿 九州大学病院産科婦人科 助教 片山由大 九州大学大学院医学系学府生殖病態生理学分野 大学院生 井ノ又裕介

#### 14. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等がある場合は、下記担当者までご連絡ください。

事務局 (相談窓口)	担当者：九州大学大学院医学系学府生殖病態生理学分野 大学院生 井ノ又 裕介 連絡先：〔TEL〕 092-642-5395 (内線 5395) 〔FAX〕 092-642-5414 メールアドレス：inomata.yusuke.218@m.kyushu-u.ac.jp
---------------	---

#### 【留意事項】

本研究は九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会において審査・承認後、以下の研究機関の長（試料・情報の管理について責任を有する者）の許可のもと、実施するものです。

九州大学病院長